

《会議資料》

地域振興基金運用益に関する意見（各地区地域審議会時意見概要）

《松尾地区 H20.11.14 開催》

○活用方法についての再検討

- ・ 本来に必要な事業に充てるべき
- ・ 留保することも必要
- ・ 慎重な検討を要する
- ・ 予算規模等必要な事項が示されていないため、地域振興基金事業に関して検討できない。我々市民に理解させるようにわかりやすい十分なものを提供していただきたい

○市民活動支援

- ・ 子供や高齢者等が安心して暮らせる地域社会づくりを踏まえ、市民ボランティア、NPO 法人などの市民活動団体への助成

○神楽の伝承等、地域ネットワークの活性化

- ・ 伝統芸能を継承していくことで地域のコミュニケーションを図る

○地域資源を活用

- ・ 地域の資源である埋蔵文化財を発掘し、保護しながら、活用していくことで通年型の観光地を目指す
- ・ 遊休農地を利用した観光を立ち上げ、観光資源として活用

○標識の設置

- ・ 合併したことにより区域が拡大し、地区の名称と場所が一致しない。地域交流のため、地区の標識を設置

○イベント等による地域の活性化

- ・ 壮年（50 歳以上）を対象としたソフトボール（男）、バレーボール（女）大会等を実施することで、高齢者が元気を保つための活動ということと、スポーツを通じて年代の違う仲間たちが交流できるようになることで、スポーツ以外のいろいろな活動へとつながる
- ・ ロードレース大会等の規模を大きくして、市内各所をめぐるフルマラソンにすることで市をアピール
- ・ ビーチバレーを活用し、集客の向上をはかりながら蓮沼サマーカーニバルへの拡充を図り、市を代表する一大イベントにする

○テレビ共同受信施設の維持管理

- ・ 地上デジタル放送に対応した共同受信施設の維持費
- ・ 共同アンテナの地上デジタル放送対応
- ・ 市のデジタル放送化への措置、対策

《成東地区 H20.11.19 開催》

○健康増進教室

- ・市民が利用したくなるようなトレーニング施設を成東保健センターへ開設する

○地区振興

- ・親子3代交流の場をテーマとした地区行事への助成
- ・地域の交流を通じて、顔見知りになり、日常の声かけ等が可能となる。
- ・子どもと顔見知りになれば、登下校等、日常の声かけや危ない行動に対する注意ができ、事件、事故を未然に防ぐことができる

○フリーマーケット型フードマイレージ号

- ・フリーマーケット型、行商型のキャンペーンカーで人が集まるイベント会場等へ出向き、地産地消による地域振興を図る
- ・小中学生にキャンペーンカーの名前やデザインを考えてもらう
- ・生産は、高齢者等が遊休農地を利用して、利益を追求するわけではなく、食べて安全なものとする
- ・消費者は、山武市産を買うことでマイレージポイントがもらえ、そのポイントでなにか山武市の安全なものがもらえる
- ・人を待っているのではなくて、こっちから出向いて行くことがポイント

○児童デイサービス

- ・空家を利用した小規模多機能型施設を開設し、老人や障害者等の居場所を広げる
- ・遊休農地を活用した福祉作業所の開設

○食虫植物園の保護拡大

- ・食虫植物の詳しい説明ができるようビデオ等での展示をおこない、観光資源の活性化をする

○体験型観光の推進

- ・地域の特性を生かし、成東のいちごを体験型での事業としてアピールする。(苺ジュースづくり、苺ジャムづくり、苺のキャラクターグッズづくり(コップ、ハンカチ、Tシャツ、お皿、絵手紙等)が体験できるようなもの

○地域の人づくりとなる事業

- ・地域人材バンクのようなものを設置し、いろいろなジャンルに参加できるような地域に根ざした生涯学習の場をつくる
- ・子どもの特徴、個性のある子どもを育てるために、小学校単位でゆとり教育、学童、生涯学習をおこなう

○地域振興基金運用益を活用しない

- ・将来を見据え、合併特例債の返済の資金とする

《山武地区 H20.12.11 開催》

○交通対策

- ・高齢化を見据え市内バス交通の充実
- ・山武市を縦断するバス路線を開設し、JRに匹敵するようなもう1本動脈をつくることで、市の一体感が生まれる

○産業活性、地域イベントの実施

- ・遊休農地を利用した研修施設の開設

○観光振興

- ・4地区で山車や神輿を出し、4年に1回程度、市全体での祭りを実施
- ・オライ蓮沼の駐車場を拡張
- ・大田区との姉妹都市提携（大田区には蓮沼商店街が存在する）

○山武杉の保全、再生、活性化

- ・林業の再生のため、溝腐れ病の発生材の再利用を検討
- ・山武杉ブランドの確立、保全
- ・山林の下刈、枝落とし、間伐、植樹等の管理作業への対応
- ・バイオマス事業や山林環境を保全するNPOやボランティアへの応援
- ・山武杉を利用した観光等の実施
- ・森林の荒廃を阻止するため、バイオマス事業として地域ブランドを創出し活性化を図る
- ・山武杉林の活性化を図る

○コミュニティの活性化

- ・空家を利用し、グループホーム等を設置して高齢者等の居場所づくり
- ・小学校区域単位での活動が薄れている。地区会議など、地域活動を話し合える場をもうけ、地域での問題点や課題を解消する。地域活動等、コミュニティ活性化に必要な活動支援をおこなう

○全住民へ配布

- ・市民へ現金を配布する

≪蓮沼地区 H20.12.12 開催≫

○公共施設の改善

- ・オライはすぬま（道の駅）の施設改善（トイレの増築または改修、駐車場出入り口の改修、夜間照明等の改修等）、障害者を考慮した、安全性、利便性の向上のための改修が必要

○高齢者介護のための介護人材確保

- ・介護の仕事の報酬が非常に低い
- ・今後、増加する高齢者が介護難民にならないようにする
- ・山武市の介護ヘルパー、介護に携わる方々が従事し続けられるような仕組みの構築
- ・地域社会のコミュニティ活性化、コミュニティーによる独居老人等を支援

○地域団体、ボランティア等への助成

- ・花などを植えたりして、きれいな住みやすい市内をつくろうという運動する地域団体、ボランティアへの助成

○地域イベントへの助成

- ・サマーカーニバルを定期的なかたちで運営できるように助成
- ・市のロードレース大会の運営や PR 等へ活用
- ・ロードレース大会をグレードアップしてマラソンにして、ホノルルマラソン等の有名なレースと肩を並べられるくらいのレースにして、多くの地域に山武市を発信できるようにする

○運用益を無理に活用しない

- ・既存の事業の中で、必要な事業に対し、手厚く助成支援していく
- ・重要な事業（その事業が市民に対してかなりインパクトのある事業）であっても予算の関係である程度抑えられるというようなものについて助成をしていく
- ・無理に運用益を使用しなくてもよい。
- ・使わなければいけないということはない
- ・今は、運用益を使わずに貯めておいた方がよい